

こし、城内・城下のみならず江戸にも被害をおよぼしていました。

そこで水量調節を目的として、文政5(1822)年ごろに江戸川流頭部の両岸から杭を打ち出して、「棒出し」と呼ばれる堤を築きます。

この棒出しによって、権現堂川から江戸川に流れる水量が減り、余剰分が逆川を経て利根川へと流入しました。以降は江戸川の水量調節が容易になり、水害も減少していきます。

水田を救った随庵堀



河川の水量調節が可能になったとはいえ、城下は大部分が低地であったため、冠水による稲作の被害がなくなることはありませんでした。

状況を憂いた二十二代藩主の久世広周(ひろちか)は幕府に申請、用排水工事を実施することとなります。そこで推挙されたのが、治水土木家であった関宿藩士の船橋随庵(すいあん)でした。

随庵は現地を調査し、嘉永元(1848)年より本格的な治水工事に着手します。

城内から各村の水田へと「関宿落とし」といわれる用水路の掘削を進め、嘉永3(1850)年の完成時、その距離は城から延打まで約20kmにおよびました。用水路は「随

庵堀」とも呼ばれ、今も農業用水路として人々の生活を支えています。

関宿藩の廃止と廃城

嘉永6(1853)年にペリー率いる黒船が浦賀に来航、幕末になると関宿藩内でも勤王派と佐幕派の対立が激しさを増していきます。

明治維新を迎え版籍奉還を経た後は、まず関宿関所が廃止となり、明治4(1871)年の廃藩置県で関宿藩が廃止されました。

そして翌年には、新政府の方針によって関宿城の廃城が決定となり、民間に払い下げられ、明治8(1875)年までにすべて取り壊されたのです。築城より40年余り、



中央に見えるのが関宿城といわれています



利根川と江戸川が分流する地点に建つ県立関宿城博物館

関宿城は江戸時代の終焉とともに歴史を閉じました。

のちの河川改修工事によって、城をはじめとする史跡の多くは失われましたが、現在でも関宿の各所に当時を物語る遺構が残されています。

そして平成7年11月には、江戸川と利根川の分流点であるスーパー堤防上に、千葉県立関宿城博物館が開館しました。

館内には「河川とそれにかかわる産業」をテーマに、利根川流域における洪水・治水の歴史、流域の産業や文化、関宿藩と関宿の歴史などが紹介されています。

また、敷地内には関宿城を模した御三階櫓の天守閣が再現され、4階の展望室からは利根川や関東一円の山々、現在

の関宿を一望することができます。

なお、同館の休館日は月曜日(祝祭日の場合は翌日)と年末で、開館時間は9時から16時30分(入館は16時)までです。入館料は、一般200円、高・大学生100円、小・中学生と65歳以上の方は無料です。

【取材協力・監修】

千葉県立関宿城博物館

(関宿三軒家143-4

☎04(7196)1400

【参考資料】

『関宿志』奥原謹爾

11 関宿城埋門



関宿城の南にあった門のひとつといわれ、当時の姿が残されています。

平成

11 関宿城埋門

東高野